



2023年12月12日  
株式会社レポインターナショナル  
くら寿司株式会社  
日揮ホールディングス株式会社  
合同会社 SAFFAIRE SKY ENERGY

## くら寿司が、国内全店舗の廃食用油を国産SAFの原料として提供 ～廃食用油の供給、および利用に関する基本合意書を締結～

株式会社レポインターナショナル(代表取締役 越川哲也。以下、レポインターナショナル)、くら寿司株式会社(代表取締役社長 田中邦彦。以下、くら寿司)、日揮ホールディングス株式会社(代表取締役会長CEO 佐藤雅之。以下、日揮HD)、ならびに合同会社SAFFAIRE SKY ENERGY(代表 秋鹿正敬。以下、サファイア・スカイ・エナジー)の4社は、くら寿司の国内全店舗の廃食用油のSAF(Sustainable Aviation Fuel:持続可能な航空燃料)への再資源化を目的とする廃食用油の継続的な供給、および利用に関する基本合意書を締結いたしましたので、お知らせいたします。

### 記

【今回の基本合意による各社の役割】

#### レポインターナショナル

全国のくら寿司店舗より廃食用油を収集し、サファイア・スカイ・エナジーが運営する SAF 製造装置向けに引き渡します。

#### くら寿司

日本国内約540店舗で発生する廃食用油を SAF の原料としてレポインターナショナルに引き渡します。今回の基本合意による廃食用油の供給量は年間およそ 378,000 リットルを見込んでいます。

#### サファイア・スカイ・エナジー

2024 年度下期から 2025 年度初めの生産開始を目指し、大阪府堺市で建設中の日本初となる国産 SAF の大規模生産プラントにおいて、レポインターナショナルから引き取った廃食用油を原料として SAF の製造を行います。本取り組みによる廃食用油から年間約 320,000 リットルの SAF の製造を見込んでいます。

#### 日揮 HD

廃食用油を原料とする SAF 製造事業に関するサプライチェーンの全体構築を主導します。本取り組みによる CO2 削減量は年間約 870 トンとなります。



### 【くら寿司が本取り組みの基本合意に至った背景】

くら寿司は、創業以来「Food Revolution = 食の変革」を目指し、他社にはない商品や独自のシステムを創り上げることで、お客様に「安心・美味しい・安い」食を提供してきました。また、海洋資源の保護や漁業の活性化を目指し、2010年より開始した「天然魚プロジェクト」をはじめとする漁業創生の取り組みや、廃棄ロスの軽減に寄与する「時間制限管理システム」、非接触構造でお客様へ安全・安心な食事環境を提供する「抗菌寿司カバー」といった様々な技術革新に取り組んでいます。さらに、近年では「お寿司で学ぶ SDGs」と題して、未来を担う子どもたちに向けて、全国の小学校で SDGsに関する学びや食育の機会を提供する出張授業を開催するなど、SDGsに貢献する幅広い取り組みも進めています。

この度、レポインターナショナル、日揮 HD、サファイア・スカイ・エナジーという全く業態の異なる企業との協創により、くら寿司単独では達成が難しかった食を通じた脱炭素への貢献が可能となります。くら寿司は、これからも日本の代表的な食文化であるお寿司を通して、持続可能な社会の実現に向けた、くら寿司の明確な存在価値を創出し、提供し続けてまいります。また、くら寿司では国内資源循環による脱炭素社会実現を目的とする「Fry to Fly Project」にも参画し、廃食用油の供給だけでなく、本取り組みを積極的に発信してまいります。くら寿司がシグネチャーパビリオン「いのちめぐる冒険」のシルバーパートナーを務めている「大阪・関西万博」の開催と時を同じくして始まる国産 SAF の供給に外食産業の一員として貢献してまいります。

#### ■ Fry to Fly Project とは

Fry to Fly Project は、国内資源循環による脱炭素社会実現に向けて、本年4月に活動を開始したプロジェクトです。2023年11月末時点で、70の企業・自治体・団体が賛同しており、個人や自治体、企業が SAF の原料となる、家庭や飲食店など身近なところで発生する廃食用油の提供や取り組みの周知・発信を通じて、日本国内における資源循環の促進に直接参加することができる場です。Fry to Fly Project では、家庭や店舗等から排出される廃食用油の収集を促進し、さらに自治体との連携により廃食用油の SAF への活用に関する教育活動を実施するなど、日本国内において脱炭素化に向けた資源循環の促進に積極的に参加できる機会の創出を目指しています。



### 【SAF が注目されている理由】

SAF (Sustainable Aviation Fuel) は、廃食用油などを原料とする航空燃料として、従来の航空燃料と比較し二酸化炭素排出量を大幅に削減することが可能なエネルギーです。航空機は自動車などと違い、電気や水素などの燃料では代替しにくいことから SAF の利用による CO2 排出削減が世界で求められています。

日本では、国土交通省が 2030 年時点で国内航空会社による燃料使用量の 10% を SAF に置き換える目標を掲げており、さらに 2050 年には、カーボンニュートラルにすることを目指しています。その実現に向けて、政府の「持続可能な航空燃料 (SAF) の導入促進に向けた官民協議会」では、エネルギーセキュリティの確保やライフサイクルでの二酸化炭素削減効果の向上の観点から、国産原料の活用が重要である一方、国内で排出される廃食用油は全体の約 3 割 (約 10 万トン強) が海外に輸出されていると指摘されており、国内での活用拡大が期待されています。

### 【国産初の SAF 大規模生産事業の概要】

レボインターナショナル、日揮 HD は、コスモ石油株式会社と共同で国内での廃食用油の収集から SAF の製造・輸送・供給に至るまでのサプライチェーン構築に向けて事業化検討を進め、2022 年に新会社サファイア・スカイ・エナジーを設立し、国内で発生する廃食用油のみを原料とした年間約 3 万キロリットルの SAF の供給を目指しています。なお、本事業は NEDO(国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構)より採択※を受けた助成事業です。

※NEDO ホームページ:[https://www.nedo.go.jp/koubo/FF3\\_100312.html](https://www.nedo.go.jp/koubo/FF3_100312.html)

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



12-5 : 2030 年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。

12-7 : 国内の政策や優先事項に従って持続可能な公共調達慣行を促進する。

13-3 : 気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する。

### 【報道機関の皆さまからのお問い合わせ先】

株式会社 レボインターナショナル 経営戦略室  
電話:075-353-2277

以上